

# 東北・北海道漁協専務参事懇談会 開催

平成十三年度、東北・北海道漁協専務参事懇談会が八月二十一、二十二日、盛岡市「ホテル大観」で、各道県の関係者約百六十人が出席し開催された。

冒頭、主催者を代表して岩手県漁協専務参事協議会の佐藤会長が「水産物の輸入増大により魚価の低迷等を招き、漁家経営は益々深刻な状況にある。これらの解決のためには漁協系統が協力し対策を講じることが重要」と挨拶。

また、参加道県を代表して北海道漁協専務参事会の細川会長が「魚価安、景気の低迷等により漁業環境は、大変厳しい状況にある。漁協経営の実務者として専務・参事の役割責務は益々重要となって



主催者挨拶を述べる佐藤会長

いる」と述べた。その後、全漁連北川組織強化部長が「水協法等改正の動向について」と題して基調講演を行なった。

また、全体懇談会では事例発表が行なわれ、北海道木古内漁協・三上専務が「漁業と遊漁の漁場利用協定の取組みについて」、宮城県漁連県密漁防止対策本部・福田事務局長が「密漁防止対策資金の創設について」、岩手県広田町

漁協・清水参事が「わかめ生産における協業化について」、そして本県からは、十三漁協・相坂参事が「漁場環境の保全と十三湖の漁業について」それぞれ発表した。

相坂参事は、全国でも有数のシジミ漁場である十三湖の隣接地に計画されているごみ処理場建設に対し、対策本部を設置し総決起大会や関係先への要望書提出等、粘り強く反対運動を行なってきた経緯を報告、建設を進める環境整備事務組

## 専務参事協議会 東北・北海道漁協



事例発表する相坂参事

合との話し合いは「未だ物別れ状態」との発表をした。

最後に、共通提案事項として提案者の岩手県漁協専務参事協議会・山崎副会長が「密漁等漁業関係法令違反に対する罰則強化について」提案、犯人らを捕らえて告訴し裁判をおこしても、漁業調整規則の罰則が軽いため訴訟をしている間に釈放されてしまうため、密漁に関する罰則規定の強化を要請、満場一致で採択され閉会となった。